# 福島のいまを知る旅(2013.10.2～3)

４丁目　　数野博久

ふくしま’のいわき市へは、60 年前、中学の修学旅行で常磐炭鉱へ。震災前年、孫とアクアマリンへ。震災翌年、老人クラブで塩谷岬の帰りに昼食を小名浜で。そして、今回、ホテルハワイアンズに泊まって、浜通りのいわき市の久ノ浜、広野町、楢葉町、富岡町をバスで廻った。

あの日から 2 年 7 か月過ぎたいま、毎日のように汚染水漏れがニュースにされている。
作業所で働く障害者たちはどんな日々を送っているのだろうか、町はどうなっているのか。‘ふくしま’の被災地を見て、聞いて、感じてくる旅が企画された。

**東日本大震災で‘ふくしま’は、**地震・津波に加え、福島第一原発の崩壊熱除去不能による冷却材損失事故で‘ふくしま’はとくに「原発震災」とまでいわれ、加えて風評被害にも巻き込まれた。そして懸命な努力にもかかわらず、いまなお ing の状態なのである。

同行の中に放射能測定器を持ってきた人がいて、記録によると新宿都庁前大駐車場で 0.093μSv(マイクロシーベルト)であった。
ハワイアンズの無料バスに乗り、3 時間著ちょっとでリゾートハワイアンズに着いた。
0.067μSvであった。ホテルの部屋に入るまでの時間「フラガール」という映画で見たようなステージを見学した。部屋に入ってから温泉に入りに行き、6 時から懇親会となった。
現地の養護教諭の方が参加され、学校の様子などを話してくれた。全国にみんな散らばっていって、残ったものはいわき市内の学校(サテライト校)の一部に間借りしていて、クーラーもない所で、窓を閉め、汗をかきながら勉強しているとか。
東電やその関連企業に就職した卒業生が仕事時間だというのに学校にやってきて、後輩の部活を見たり、保健室に来たりしている。理由を聞いてみると、被曝放射線量が基準値を超えるので仕事が続けられないとのことであったそうだ。
ある日、男子生徒たちが、巣から落ちて弱っていた小雀をタオルにくるんで保健室に、小雀を助けてほしいと持ってきた。当時は鳥一匹もいない状態だったところへやっと帰ってきた小さないのち。数日して、漸く癒えて放すことができたという。

翌朝、9 時に大型バスに乗り込んだ。浜通り医療生協理事長・原発問題住民運動全国連絡センターの筆頭代表委員の伊藤達也さんが忙しい中、案内をしてくれた。
震災翌日、避難指示があり、大熊、双葉、浪江、富岡、楢葉、広野など浜通りの人々が‘いわき’に向かって国道 6 号線南下してきて何 10 ㎞にわたって大渋滞であったという。
いま 3 つの発電所(福島第 1、福島第 2、広野火力発電所)の社員、6 千人を超える全国から集まった除染作業員などに加え、2 万 4 千人に近い移民が仮設住宅などに居るという。
かつては日本一広い市といわれたが、いまは15番目。仮設住宅を建てる広い土地があり、いまや被災者の「仮の町」となっている。交通渋滞、医療の混雑、税金のこと、いつまで続く避難生活など被災者同士がいがみ合う事態が生じていて、国が手を差し伸べないと…。

南北に40㎞あるいわき市も小名浜、四倉、久ノ浜など沿岸沿いは地震や津波でやられた。
途中、作業所を訪問する予定であったが、帰りのバスの時間の関係でとりやめ、その作業所障害者たちが、地元の食材でつくったお弁当を積み込んで、海沿いに国道６号線を北上していった。

はじめにバスから見た所は、「八重の桜」に出演した吉川晃司と中村獅童が来るなどテレビでも何度も見ている久ノ浜であった。
次に除染が終わり、避難解除となって、帰宅が認められた広野町の広野駅に行った。
これより先に電車は行かないので、いまのところ終点の駅である。0.176μSvである。
４月より帰宅が許されたが、住民が２割しか戻らない広野町(30㎞圏内)
案内の方の大きめの放射能測定器では、広野町は0.25であった。

ＪＲはここより先はまだ開通していない

広野町

ここまで開通。下りホームへはいけない

広野町は、火力発電所やＪリーグ屈指のナショナルトレーニングセンター(Ｊヴィレッジ)があるので名が知れていたが、いまは芝生が剥がされ、コンクリートが敷かれ、駐車場となり、原発や除染の作業員が、ここで防護服に着えて出ていく基地となっている。ここを一周した。福島第１原発から20㎞圏内に入っていく。8月10日から検問が取り除かれ、誰にでも自由に行けるようになった。

## 楢葉町　除染中、昼間帰宅してもよい町（２０㎞圏内）　0.299μSv

**すぐに楢葉町に入った。野積みされた除染の土を入れた黒い袋の山は…。**
**東北で唯一鮭が遡上するといわれている楢葉町の木戸川には、遺伝学者が蝶や虫を捕まえて調査しているともいう。**
木戸川沿いにのぼり、橋を渡って町役場の方に曲がっていのと、家の周りの草刈りをしている人や庭の花壇に花を植えている人を見て、ホッとしたりもした。しばらくして、竜田駅に着いた。

除染された汚染土の袋が野積みされている楢葉町

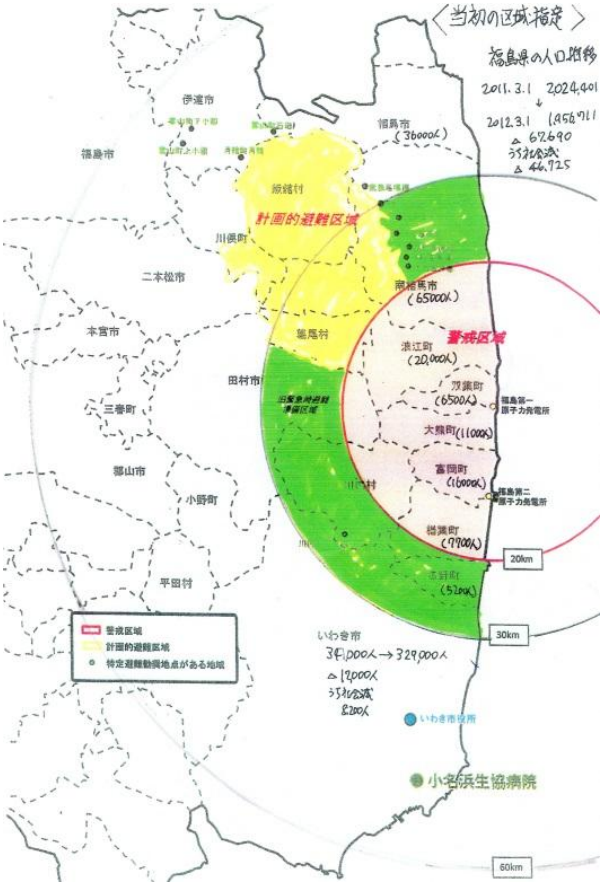
楢葉町の駅名は竜田駅

除染中の竜田駅構内

駅前の泥棒に壊された自動販売機

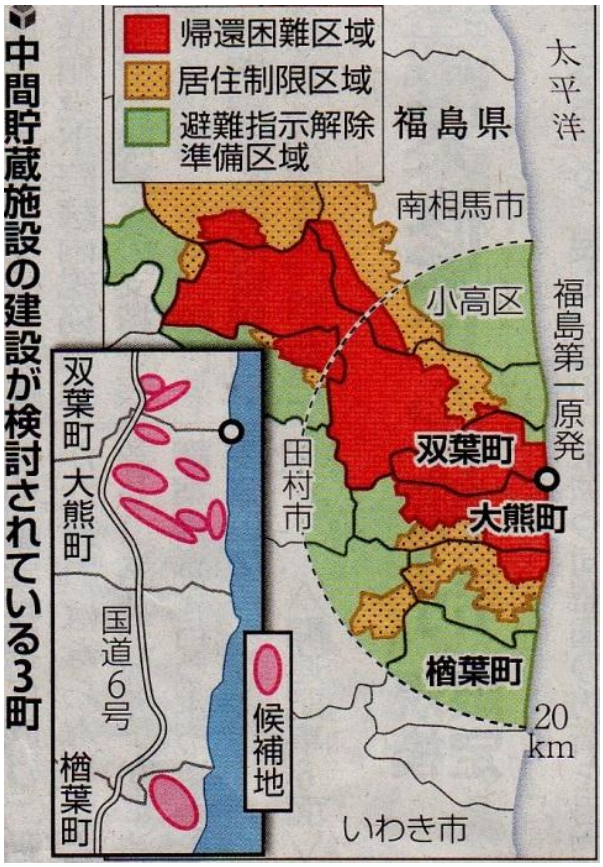
通勤・通学の自転車置き場

ＪＲは敷石も取り替え除染中




当初の区域

⇒




2013.8.7 現在読売新聞(9/5 朝刊)より

除染作業員

## 楢葉町

8 月 10 日よりＪヴィレッジの封鎖が解かれた。これにより、自由に入ることができ、ドロボーが増えた。夜間は無人状態で治安悪化。ライフラインが復旧していない。町からの説明不足。除染が不十分などの理由で「まだ原発警戒のままの方がよかった」「まだ警戒解除にしてほしくなかった」といっている。

←除染了。帰宅してこない広野町。除染中の楢葉町。時の止まった富岡町⇒

楢葉町から富岡町の境。1.3μSv・

あの日、あの時から時の止まったままの富岡町(福島第２原発がある町)　1.083μSv

## 富岡町

草もそのまま。家は小動物の栖。

あの時から止まったままの時計

警察、自衛隊などの行方不明者の探索のほかはこの 5 月までは入ることができなかったところで、もちろん今でも当時のまんま、先頃漸く国が小学校の校庭の除草をしたそうだ。

地震でがたごとする道もあり、津波で流されてきた車。道路上を塞ぐ流されてきた家。

一階部分は津波で壊され、柱は折れ、タンスの中や家の中は小動物のすみかとなっていて、戻りたくても戻れない所となった。

線路も草ぼうぼうの富岡駅

駅の向こうは何もなし

津波にも残った木

日本の歴史上最大で、最悪の公害と案内の方がいったか、まさにそうだと思った。

駅の線路上はセイタカアワダチソウが背丈以上となり、電線の束が垂れ下がっていた。

車場飛び込んだままの家

一階の柱が亡くなったホテル

1000 年に 1 度といわれる大震災の日から今日まで、そのまんまで手の施しようのない状態を呈してきている。人々の生きる術、生きる喜びを削ぎ、二度と戻ることができない地となりかねない様相を呈している。全く良い策はないのだろうか考えさせられた。

富岡駅前通り

駅前のホテル

富岡駅下りホーム

目の当たりに福島のいまを見て、聞いて、知って、考えさせられた。でも人がほとんどいない町を見てまわったが、それは非日常の生活の世界、時の止まった世界であった。

避難生活の一日一日がこれからの新たな望みのある生活、原発震災への対応等への足掛かりとなって、幾多の課題をみんなで考え話し合い、行動して、自分たちの力で切り開いていってほしいと思った。バスで森の近くを通るときには放射能測定器の値が上がった。3μSvを越えた。ところによっても値にちがいがあった。さらにそれより心配なのは、チェルノブイリ原発では放射物質の大気への大量放出であったが、福島第 1 原発は 7 分の 1 が大気で、あとは海洋への放出がいまもなお……。帰りに楢葉町の彼岸花が庭に咲き並ぶ大

**圓山寶鏡寺により作業所でつくったお弁当を食べたが、とてもおいしかった。**